

## 「2025 年度 新商品説明会」を開催しました

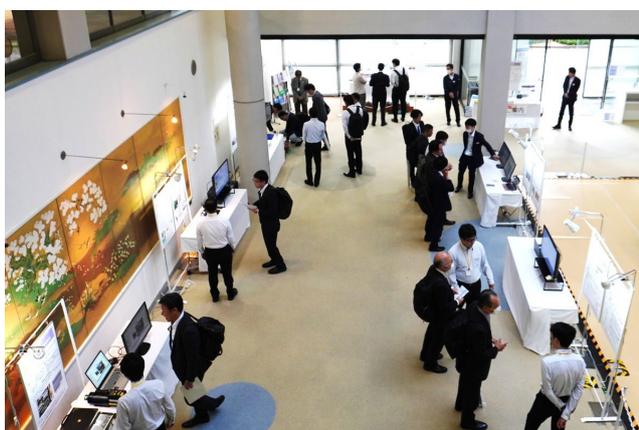
2025 年 6 月 3 日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）では、研究開発の成果を幅広く活用していただくため、研究成果の一部を商品として提供しています。最近の開発商品・バージョンアップ商品に加えて、利用実績が増えつつある商品を紹介する「新商品説明会」を開催いたしました。

1. 開催日時：2025 年 5 月 30 日（金）10 時 00 分から 16 時 30 分
2. 場 所：鉄道総研 国立研究所 インタラクションスクエア
3. 展示内容：

今回は、車両分野および軌道分野において、安全性の向上や生産性の向上に資する 13 件の商品（詳細：表）を展示し、来場者の皆さまに商品の概要および導入効果等の説明に加え、実機を使用してご体験いただきました。

4. 来場者数 鉄道事業者を中心に 57 社 142 名

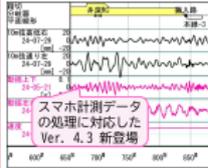
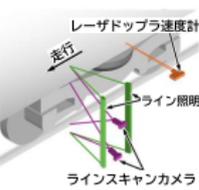
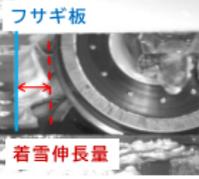
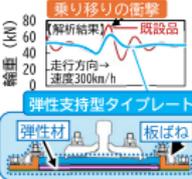


（写真 1）新商品説明会会場の様子



（写真 2）商品のプレゼンテーションの様子

表 2025 年度 新商品説明会 展示件名

軌道		車両																							
	<p><b>軌道保守管理データベースシステム (LABOCS)</b></p> <p>軌道変位、列車動揺等の各種検査データをキロ程ベースで一元管理します。これにより軌道の維持管理の効率化が図れます。</p>		<p><b>車両床下撮影装置</b></p> <p>走行する鉄道車両の床下部の高精細な連続画像を地上から撮影する装置です。車両床下の外観検査を省人化できます。</p>		<p><b>列車巡視支援アプリ (Train Patroller)</b></p> <p>携帯情報端末を用いた列車巡視支援アプリです。これによる計測データと撮影画像を組み合わせ、巡視を省人化できます。</p>		<p><b>車両台車部における着落雪推定手法</b></p> <p>気象情報等から、車両台車部への着雪量や落雪箇所をリアルタイムに推定する手法です。雪おとし作業の効率化が図れます。</p>		<p><b>地理・気象データを用いたレール温度推定手法</b></p> <p>地理・気象データからレール温度を推定する手法です。軌道座屈防止のための、緻密かつ高精度なレール温度管理が可能です。</p>		<p><b>低温環境に対応した潤滑油 (ギヤ油・車軸軸受油)</b></p> <p>-30℃ の低温環境下で使用可能な新幹線車両用ギヤ油・車軸軸受油です。寒冷地でも車両の起動がスムーズになります。</p>		<p><b>トングレール開口量表示器</b></p> <p>トングレールの開口量を計測して検査者に通知する装置です。転てつ装置の密着度検査を省人化できます。</p>		<p><b>空転防止用増粘着材</b></p> <p>砂に代わる鑄鉄系の増粘着材です。落葉などに起因した空転に対し、従来の材料よりも優れた増粘着効果が得られます。</p>		<p><b>まくらぎ直結軌道用伸縮継目の弾性支持型タイプレート</b></p> <p>新幹線用まくらぎ直結軌道用伸縮継目用の弾性支持型タイプレートです。車輪の乗り移り等による衝撃荷重を低減できます。</p>		<p><b>X線撮影による鉄道車両・設備の非破壊検査</b></p> <p>X線を用いて、車両などの設備の内部状態を観察する装置です。対象物の欠陥や劣化を非破壊で高精度に検査できます。</p>		<p><b>超微粒子セメントグラウトを用いたてん充填床軌道</b></p> <p>超微粒子セメントグラウトで既設バラストを固化するてん充填床軌道です。施工・保守コストを削減することができます。</p>		<p><b>高解像度音源分布を用いた新幹線沿線騒音の予測</b></p> <p>車両周りの高解像度音源分布から沿線騒音を予測する手法です。車両形状等の変更が沿線騒音に及ぼす影響を評価できます。</p>		<p><b>バラストの劣化状態検査装置 (透過音試験装置)</b></p> <p>道床内を透過する音の大きさから、バラストの健全度を判定する装置です。バラストの交換要否等を定量的に判断できます。</p>

(問い合わせ先) 公益財団法人鉄道総合技術研究所 総務部 広報 TEL : 042-573-7219